活動報告

令和3年度上半期

2021年10月

一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構事務局



インターネットのコミュニケーションツールとしての「技術的信頼性」と、インターネットが伝えるデジタルコンテンツの安全性・倫理性・信憑性を示す「社会的信頼性」の両概念を統合し、新しいインターネットのより広い「信頼性」(Credibility)の確立を目指します。

- ・エンドユーザーから専門家までの人材育成事業(資格認定制度)に取り組む
- ・青少年インターネット環境整備法の理念に基づき、特定サーバー管理者を設けて、青少年に対して有害情報の閲覧防止措置を具現化する
- ・安心・安全なインターネット環境を実現するための普及啓発活動に取り組む

1.DCA1 級資格の運用開始

DCA1 級資格は、これまで制度の枠組みは策定されていたものの、実際に資格を取得した者が存在しない状況が続いてきましたが、DCA 資格制度を運営する DCA 委員会の委員らに、7 名に 1 級資格を認定しました。

- 当機構が運営するデジタルコンテンツアセッサ(DCA: Digital Contents Assessor)資格は、デジタルコンテンツの 受発信について、技術面のみならずリテラシーやコンプライアンスといった社会的信頼性の面から評価・判断できるコンピ テンシー(知識・スキル)を認定する民間資格です。
- DCA1 級から DCA3 級までの 3 段階があり、1 級はデジタルコンテンツを社会的信頼性の観点から評価する情報コンサルタント、2 級はサーバー上のデジタルコンテンツの管理者、3 級はデジタルコンテンツを適切に受発信できるユーザーのレベルを想定して認定することとなっています。
- なお、令和 3 年度上半期の終了時点での DCA1 級から 3 級までの資格取得者は累計 1,255 人となります。

2.DCA 資格制度のための新教材の使用開始

デジタル教材「デジタルコンテンツアセッサのための最新知識 Ver1.1」が、新たに DCA 資格科目認定プログラム実施校で使用されるようになりました。

- 本デジタル教材は、書籍教材『デジタルコンテンツアセッサ入門』(2016)を補強する教材です。既に書籍教材の刊行から 5 年が経過し、「著作権法」や「青少年インターネット環境整備法」などのデジタルコンテンツ利用に深く関わる法令の改正や、ネット上のリスクをコントロールするための手法として適用することを推奨した「リスクマネジメント」の規格(JIS Q31000)の改訂、技術革新や海外動向の変化などに対応した教材の提供の必要性が高まっていました。
- 本デジタル教材は、そうした最新動向に関わる知識を DCA 資格の取得を目指す学習者のために提供することを目的として制作されました。令和 2 年 8 月末に Ver1.0 を作成したのち、 DCA 科目認定プログラム実施校の教員の方々による評価・検証を経て、令和 2 年度末には Ver1.1 の公開に至りました。

3.DCA2 級修了試験の試験範囲の変更に伴う新試験問題作成

DCA2 級科目認定プログラム実施校の担当教員に、新試験範囲を含む試験問題 2 セットが配布済みであり、令和 3 年度の科目認定プログラムの受講生に対して、新試験問題に基づく「本試験」及び「追試験」がプログラム実施校の任意の時期に実施可能となりました。

- DCA2 級資格を取得する際に課している「修了試験」の試験範囲は、令和 2 年度までは書籍教材『デジタルコンテンツアセッサ入門』(2016)のみでした。
- 令和 3 年度からは、この試験範囲に、2.で言及したデジタル教材の記載内容を新たに加えることとしました。これに対応する試験問題の作成作業の結果、「本試験」用と「追試験」用の 2 セットの試験問題の完成に至りました。









4.デジタル教材「異世界で学ぶ情報セキュリティ」の公開・普及活動

令和 2 年度子どもゆめ基金の助成を受けて開発した教材「異世界で学ぶ はじめての情報セキュリティ」を、下記の I-ROI ウェブサイトで公開し、普及活動を展開しています。

本教材の特徴は、学校教育の現場などでも使用されているサンドボックス型ゲーム「MINECRAFT」を用いていることです。情報セキュリティは、目で見たり手で触れたりできないものなので、子どもたちにとっては身近な問題として認識しにくいものです。そこで、例えば「セキュリティの防壁 = 城壁」「マルウェア = モンスター」という形で MINECRAFT の仮想ワールド上に可視化し、RPG をプレイするかのように楽しみながら情報セキュリティを学べるように工夫しました。

公開場所: http://dcajr.jp/isekai/

- 子どもゆめ基金は、独立行政法人国立青少年推進機構が運営し、国と民間が協力して子どもの健全育成の手助けをする基金です。 令和 2 年度には当機構の「異世界で学ぶ情報セキュリティ」が採択されました。

5.「高校生 ICT Conference 2021」への後援

コロナ禍による各種イベントの中止が相次ぐ中、ハイブリッド開催となった「高校生 ICT Conference 2021」(テーマ:フェイクを見極める)への後援をしました。

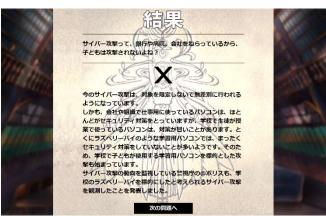
- 高校生 ICT Conference は、全国の高校生のグループが参加するもので、ICT をテーマにした高校生熟議のイベントです。例年、全国十数カ所で地域開催をした後、各地域の代表が「サミット」に終結します。















6.関係団体との連携

「安心ネットづくり促進協議会」「情報通信における安心安全推進協議会 ネット社会の健全な発展部会」「一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会(Grafsec)」などの関係団体との連携を行い、青少年のネット利用の実態調査や青少年への普及啓発活動に取り組むことを確認しました。

- 安心ネットづくり促進協議会は、ICT を使いこなす子どもたちとそれを温かく見守る大人たちの育成を目指す、わが国におけるインターネット啓発活動の中心的存在といえる団体です。
- 情報通信における安心安全推進協議会 ネット社会の健全な発展部会は、インターネット上で名誉毀損やプライバシー侵害、差別的表現などの他人を傷つけるような情報発信が行われないよう利用者のマナー及びモラルの向上のための普及啓発活動等に取組んでいます。
- Grafsec は、サイバーセキュリティに関する啓発活動を行う日本全国の団体を互いに連携させ、効果的な啓発活動を 支援している団体です。

7.学術研究への貢献

DCA 委員会委員の東北福祉大学高橋俊史助教が中心となって、当機構が開発したデジタル教材やロールプレイ教材を用いた情報モラル教育の実践に関する成果を学術論文にまとめ、教育系の学術誌に投稿する予定です。

- 当機構の事務局スタッフも本論文の共著者として名を連ねており、コロナ禍におけるオンライン講義の拡大の中でアクティブ・ラーニングを実践することの意義について論じています。

8.業務効率化の推進

令和 2 年度末をもって、前事務局長が退職し、事務局の態勢が新しくなりました。新たな職員の補充は行わず、 現在、既存の人員で事務局業務を遂行するための業務効率化を推進しています。

- 前任者は長年にわたって事務局長の職にありましたが、事務局長の交代に伴い、令和3年度上半期には、事務局の諸業務の見直し・整理・可視化に取り組みました。



一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構

https://www.i-roi.jp

Copyright 2021 Internet-Rating Observation Institute